

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第17号

事務連絡（高札場）

◎年頭の「あじわい」

新年好！本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます。
本会の特色は、ハンテランと初心者
が一緒に同じ古文書を読み進めて
いくことです。しかし、このスタイ
ルのつらさは、テキスト選びにあり
ます。

初心者のことを思えば、かなり読
めるようになったベテランにも満足
していただける難解で読み応えの
あるものは選べません。比較的読み
やすく、しかも内容的にも面白い古
文書といつものは、そう出逢えるも
のではありません。

いろいろの不満もございませよ
うが、できるかぎり皆さんの興味を
ひきそつなものをこれから提供
していきますので、どうかご堪忍い
ただけますようお願いいたします。

二〇一八年正月

木村修一



発行・編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部
連絡先 090-8882-5537



迎春吉祥
初春を迎え 皆様のご健康とご多幸
をお祈り申し上げます
本年もよろしくお願ひ申し上げます

平成三十年 元旦
丹波古文書倶楽部役員一同

☆ 二月例会

日時 2月10日(土)

午前10時、柏原住民センター

会場準備(敬称略)

川原邦弘、桜井三枝子、瀧本栄子

☆ 三月例会兼総会の会場変更

日時 3月10日(土)

午前10時、

場所 春日住民センター大会議室

会場準備(敬称略)

前川哲和、友井辰哉、深田俊郎、

森本恵美子

情報提供(みちしるべ)

柏原住民センターが、本年もこの
間納税相談会場に使用される事か
ら、例年通り、春日住民センターで

☆ 第6回歴史TAKEDA

主催 竹田地区自治振興会

会場 竹田「ミニミュージアム」

1月27日(土)午前10時～12時

テーマ 千田和泉守の鎧と兜

講師 ナビゲータ山内順子さん

参加費 500円、資料(カラー)お菓

子お茶付 申込不要 問合先 青木

さん(080038257513)

☆ 第5回歴史TAMBA

主催 柏原自治協議会

会場 柏原自治会館

1月19日(金)10時半～12時

講師 井上正直氏(文化財石垣修復

担当者)

テーマは 丹波地域の美しい石垣

参加費 300円、申込先 柏原自治協

議会(0795730198)

☆ 丹波市教委 第6回歴史講座

主催 丹波市教委文化財課

1月20日(日)13:30～15:00

会場 山南住民センター

講演 村と寺社建築の関係史(仮)

講師 神戸大学大学院工学研究科

教授 黒田龍二氏

☆ 神戸大学地域連携センター

第16回歴史文化をめぐる地域連

携協議会「申込〆切1月22日

日時 1月28日(日)11時～17時

会場 神戸大学瀧川記念学術交流

会館 参加無料 弁当必要

テーマ 住民主体の「地域史」づくり

→平成大合併後の状況の中で

☆ 市民活動 地域づくり活動応援

フォーラム(丹波市市民活動課)

→市民活動支援センター整備に

向けて、参加費 無料

日時 1月23日(火)午後1時～

場所 ゆめタウンポツアツポー

ル

自己紹介(口よ)

◆ 春日町 瀧本 栄子様

古文書との出会い

十八年ほど前になりますが、住ん
でいた枚方で古文書勉強会ができ
た時に入会したのが最初になりま
す。

動機は旅行先などで古文書を目
の前にして日本人として読めない
ことへの不甲斐無さがあり、先祖の
生活や社会のしくみ、出来事など
歴史を古文書から自分で読み取り
たいとおもいからでした。

しかし、くずし字を読み解読する
ことは至難の業でした。二年間の資
料だけが増えて、なかなか上達せず
に今に至っています。

大阪での資料は教科書で習った歴史と繋がるものも多く、とても興味深いものでした。残念ですが、今はほとんど読めません。

此の度、丹波古文書倶楽部に入会させて頂き皆様の真摯に取り組みられている姿勢に刺激されて、少しずつ記憶を呼び戻すべく努力をしています。健康で少しでも長く続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

◆春口町 荻野 展男様

「夢」

昨年12月末、岸代表より古文書かわら版への投稿依頼のお電話がありました。溫和しくして下さり、が、いよいよ順番が回って来たと思念しました。

さて、いつ入会させて頂いたのかと日記を取り出してみると、平成23年12月10日の例会より参加させて頂いてゐることが判りました。私が古文書に興味を持ったのは、四半世紀程前、自治会の所有している古文書に目を通したのがきっかけで、年貢関係の書類のように記憶しています。何とか読めるようになりたいと常々思っていました。

そんな時、丹波古文書倶楽部の活動を知りました。幸い、職場の先輩小西敏晴さんがいらつしやいましたので、早速入会のお願ひをし、今日に至っております。

学習は例会の前日や当日の朝くらいしか出来ていませんが、6年間

通い続けた中で、その時代背景も含め、少しずつながら理解が深まっているように嬉しく思っています。

今、抱いている夢は、自治会所有の古文書を木村先生はじめ神戸大学地域連携推進室のご指導と自治会の皆さんのご理解とご協力を得ながら整理・判読作業を行いたいと思っております。

すこし永い時間が必要かも知れませんが、成就しました際には教材としてご提供できれば幸いです。今年も厚かましく最前列で受講します。

特別寄稿（読み売り）

丹波古文書倶楽部の歩み（5）

前代表 川口利和

2016年度は、事業は例年実施の①例月講座（現行と同様に、原則毎月第2土曜日、10:00～2時間、年10回、会場は主に柏原住民センター）、②フィールドワーク（12月・講師：青垣古文の会（青垣町）代表・講師）、③新年会（1月）、④総会（3月）のほか、⑤新規事業として、⑥会報（6月創刊）、⑦茶話会（11月）を実施いたしました。

フィールドワークの内容は青垣古文の会の歴史、奉差上候口上書草稿（永代記録帳等の解説 鑑賞、脇本陣（副本陣）中島家高座神社の縁起等の解説 現地視察）でした。特に青垣

古文の会講師の蘆田輝夫氏におかれては、講義予定は40分だったので、95歳という年齢に拘らず1時間に亘つてのホワイトボードを活用した起立での古文書解説にはその身も心もお元氣であることに驚愕でありました。あやかりたいものです。

会報につきましてもは例会時に事務連絡で板書する倶楽部行事等の内容、会員の自己紹介、歴史に拘る情報等で可能な限り毎例会時発行されているところです。11月の茶話会では丹波の森公苑で会員12名の参加がありました。その中で倶楽部参加の動機は①地元集落で発見の古文書を読みたい、②集落神社等を調査し記録保存したい、③実家で保存の古文書を読み解き整理したい、④日本人でありながら日本のことを知っていないので古文書を学習したい、⑤家系図を読むために古文書を学習したい、などでした。会員はそれぞれ目標を持つ活動されている姿がよくわかる集まりでありました。

また、残念ながら大雪警報発令という想定していなかった天候により中止となりました生涯学習市民活動実践グループシンポジウム（2月11日（土）、13:30、会場 柏原住民センター）は事業担当の岸副代表（現代代表）の大活躍により知識経験とも豊富な講演講師、パネラーの選定ができたにも拘らず決行できなかったことが心残りであり

ますが、やむを得ません。開催の前々日まで配付資料等の準備に労を惜しまず活動されておられた岸副代表の姿を鮮明に思い起こします。会員数は34名でした。

2011年度～2016年度までの6か年に亘り毎年度新規加入会員があつたことは、古文書判読学習に対する関心の高さを窺い知ることができ、発見であります。また、会員は当倶楽部の他にも同種団体、通信教育等で学習され、その熱心さの根底にある、知りたい学びたいという挑戦の心を今も持ち続けておられることには敬服するところでもあります。

自らの楽しみに留まらず、蓄積された古文書判読の知識習熟を活かした郷土の村文書 神社仏閣資料等の解説公表による歴史を踏まえた地域づくり等の社会貢献も視野に入れつつ、いついつまでも若々しく活躍されますようご祈念申し上げます。（このシリーズ 完）

編集後記（金棒引き）

先ずもって、川口前代表に詳細な当会の歩みを書いて頂いた事に心から、御礼申し上げます。

当会も平成30年4月から8年目に入ります。良き先達の下、一層の精進に努めましよう。（岸）